

コロナに追われ、仕事納め 病床逼迫、保健所は悲鳴「ギリギリ」

2022年12月28日 毎日新聞



仕事納めを迎えた28日朝、マスク姿で職場に向かう人たち＝東京・霞が関で

多くの企業や官公庁が28日、仕事納めを迎えた。新型コロナウイルス感染拡大で保健所からは「ギリギリの状態」と悲鳴が上がる。東京オリンピック・パラリンピックを巡る汚職事件で東京地検特捜部の家宅捜索を受けた広告大手電通の社員は「信頼回復が一番だが、来年も厳しい年になるだろう」と話した。一方、皇居では来年1月2日に新年一般参賀が3年ぶりに開催される予定で、宮内庁幹部は「良い年の始まりに」と意気込む。

コロナ対応に追われた千代田保健所（東京都千代田区）の原田美江子所長は、9月末から始まった感染者の全数把握簡略化について「重症化リスクのある人のケアに集中できるようになった」と評価。ただ12月中旬以降は、感染の急拡大で入院調整が再び難しくなり「病床が見つからないケースが増え、ギリギリの状態。お休みムードはない」と危機感を募らせた。

コロナ関連の施策を担う厚生労働省の幹部は今年も忘年会を自粛したといい「コロナを気にする最後の冬になってくれれば」と願った。

電通でスポーツ関連業務に携わる社員は「五輪汚職や談合で信頼が揺らぎ、社名を名乗るだけで逆風が吹く」。2030年札幌冬季五輪招致や陸上の25年世界選手権（東京）を控え「今後のスポーツビジネス界がどうなるのか見えない」と肩を落とした。新年一般参賀には天皇、皇后両陛下の長女愛子さまが初めて参加される予定だ。各部署から応援が入って対応するといい、宮内庁幹部は「感染対策を十分講じて、良い年の始まりとなるようにしたい」と話した。

世界平和統一家庭連合（旧統一教会）に対して宗教法人法に基づく質問権行使に着手した文化庁。2回目の調査回答期限を1月6日と教団に通告しており、実務支援に加わった文部科学省職員は「解散命令請求するかどうかの検討作業を少しでも早く進めなくてはならない。年末年始もあまり休めそうにない」とため息をついた。

KDDI（au）は7月に大規模な通信障害を起こし、延べ3000万人以上の利用者に影響が出た。広報担当者は「安定してサービスを提供するため、人工知能（AI）による監視など運用の高度化を進める」と語った。（共同）